

認知症の人と家族の人权

リレー連載
〈最終回〉

3

今月の
テーマ

百年の逆行 ～徘徊は誰が見守るのか～

精神科医 宋 仁浩

(そう・いんの) 北山通ソウクリニック院長。精神科一般外来に重度認知症ディケアを併設



1 民法第七百四条

「…これを監督すべき法定の義務ある者は、その無能力者が第三者に加えたる損害を賠償する責に任ず。ただし監督義務者がその義務を怠らざりしときは、この限りにあらず」認知症列車事故の賠償根拠条文である。監督義務者に準ずる責を長男夫婦と妻とし、しかも監督義務を怠ったとしている。

2 私宅監置法とその時代精神

1900年、精神病者監護法（以下私宅監置法と表現する）が成立。法の目的は社会防衛であり、精神病者が他者に危害を加えぬよう、家父長が座敷牢に監置すべきとした。そこに精神病者の医療提供や基本的人権の概念はない。精神症状の悪化をもたらしかねず、慎重に判断すべき拘禁に対して、施錠の義務を一方的に断じ、高齢の妻の6、7分の居眠りを監督義務の怠りとした判決は、この法があつた時代にこそふさわしい。

江戸の封建時代、差別は悪ではなかった。身分制度は統治の根幹と秩序の中心だった。

明治に入り、大日本帝国憲法下で一応四民平等とされたが、「神聖にして侵すべからざるもの」は天皇であり、その代理である実父長は、家族の自由を制限できた。人権は一定の制限下でのみ認められ、「命は鴻毛よりも軽し」帝國の為の殉死は、最高の美德とされた。私宅監置は、生命を軽んじ人権を認めない時代だからこそ合理とされたのである。

3 民主主義と基本的人権

二つの世界大戦が終わり、人類は二つの教訓を得た。この惨禍をもたらした帝国主義そ

のものの否定と（核兵器の開発で人類の滅亡さえ危惧されるに及び）紛争を解決する手段としての戦争の否定である。この精神を前文とした日本国憲法を約束手形とし、国際社会に復帰を認められた日本は、平和、福祉国家と基本的人権の尊重を国是としたはずである。しかし、与えられた宝石のような民主主義は深化せず、反動の嵐が吹き荒れている。行政をチェックする司法は、癪着し、政府の従僕のようである。第一に守るべきものが人権であるという当然の前提に立つ時、一方的に拘禁を命じられる認知症の人と、老体の数分の居眠りさえ懈怠とし監督を強いられる妻の日常のどこに、憲法25条の「健康で文化的な最低限度の生活」が保障されているのか。基本的人権の保障を欠く常況下で起こった損害に賠償が成り立つのだろうか。

4 石垣島と徘徊

高橋幸男先生（エスボアール出雲）が記している。「『徘徊』していたとしても大体どこの誰かわかっているのだから、あの手この手で連絡を取ることによって、行きたいところに連れていく。石垣島では、痴呆老人が『徘徊』のため行方不明になって皆で探すなどということは勿論ない」（当時の石垣市役所の翁長氏他の話を先生が聞いたもの）

私宅監置法が精神病院法に変わり、病者は座敷牢から閉鎖病棟に移動した。目的は医療ではなく危険分子の排除、収容である。歴史的に沖縄では、この収容の時代がなかった。この徘徊ケアを、都会にそのままあてはめることはできない。しかし、家族に対する監督という要求が存在せず、地域住民、行政が力を合わせて認知症の人の暮らしを支えてゆく文化が損われていないことに着目すべきである。

5 正義は二重基準 (ダブルスタンダード) を許さない

仮にこのケースが、家族が介護せず、独居であったとしよう。同じ事故が起きた時、JRは徘徊防止措置を怠ったと行政を訴えるか。裁判所は行政に対し、支払いを命じるか。

裁判所の言う、施錠、ヘルパー依頼を怠った等の指摘よりも、長男の「その凡てを実行しても防げるとは思えない、鍵をかけてずっと閉じこめると言うのか」との言い分の方が、現場を知るものには、遙かに説得力がある。家族は、嫁が近くに住み、妻が同居し介護サービスを使い、見守っていたという事実で、既に監督義務を怠らざりしと考えるべきである。後は、地域と行政の努力に責を任すべきである。突然家族を失った側の痛みはどうなるのか。逆に行政、JRの方が、慰謝料請求されるかもしれない。

6 JRへの提言

今回の訴訟目的は、このような事故が頻発しないよう注意喚起、警鐘を鳴らすことにあると類推する。しかし、それには無理がある。認知症の人の視線は直線的で、視野が狭く、ものの奥行きが把握できない。例えば、遮断機の棒から地面までの半分位の高さを半透明のビニールや樹脂等で覆えば、壁と認知して歩が止まるかもしれない。専門家の意見を集めれば、少額の負担で同種の事故を防げる可能性がある。小生も無償で協力する。こんな残酷な訴訟より、コストも胸の痛みも少ないはず。このままでは、逆に踏み切りの危険を除去する努力を全くしなかったとして、将来遺族から訴えられるリスクもありますよ。

（おわり）

次回からは、中西亜紀医師の「前頭側頭葉変性症とは—病気とケアを知る—」(仮題)を連載します。

1/31開催●13年度下半期 会報・ホームページ編集委員会報告

読めば元気になれる…そんな会報を目標に

宮崎、佐賀、福島、福井、大阪、および京都の全委員が参加し委員会を開催しました。今年度のよかつた点は、当事者視線、情報量、あたたかさ、つながりの体感、「家族の会」の活動が分かることでした。さらに充実していくために来年度の会報の内容を検討しました。



画面を見ながらホームページの内容について検討

主連載は、前頭側頭型認知症について、大阪市立弘済院附属病院、神経内科・精神神経科部長の中西亜紀医師に執筆をしていただきます。好評のエッセーは、青森全研講演者の東海林幹夫医師（弘前大学教授）、吉田乃美氏（シルバー新報記者）、波平恵美子氏（文化人類学者）、小菅もと子氏（「折り梅」の著者、愛知県支部会員）。社会保障情報は、改悪となりそうな、介護保険制度の具体的な内容を情報提供していきます。4月号から広告を掲載していくための掲載基準なども話し合いました。

1日、2,500件近いアクセスがあるホームページは、認知症情報、「家族の会」活動を、さらに分かりやすく、理解していただけるようにしていきます。みなさまの声が推進力です。よろしくお願いします。

（委員長 鎌田松代）



伝えたいこと

早川一光卒寿の思い

第五話 諸行無常の：ひひき

ガマのような体つきの父は、よく僕を風呂にさそつた。「背中を力を入れて洗う」と言う。

私も消毒薬のニオイのする広い背中を手ぬぐいでこすった。父は突然

「祇園精舎の鐘の声 諸行無常の響きあり 沙羅双樹の花の色 盛者必衰の理をあらわす おこれる人も 久しからず ただ 春の……」と天井を仰いで声を出した。

子どもの僕には 只 呪文のようにしか聞こえなかった。

興にのれば、旧制一高の寮歌—— あ一玉杯に花うけて一つづいた。

学問をつづけたかったし、上級の学校にも行きたかったのだろうか。貧乏学生には望むべきことでもなかったのだろう。

父にとっては、研究が夢だったようだ。

でも、村の皆さんに乞われて、村のこども医者として根づこう、とりくもうと心に決めた時からの 病人主体の医の追求は、すさまじかった。診療室は寺の本堂のよう、待合室はお寺の広間のようだった。

全部、畳じきで 母親が楽に背中の子どもを寝かせられた。

夜中の父の寝床は いつも空であった。

会員さん からの お便り



義母は 忘れてしまったけど

京都府・Iさん 59歳 女

義父母と同居をして20年になります。10年前、糖尿病から脳血管性認知症になった義父の介護の際、義母が義父を虐待し始めたので、介護認定を受けて介護サービスを利用しました。義父は、寝たきりの状態になってまもなく亡くなりました。

その義母が、現在84歳になり、義父と同じ状況になっています。介護サービスのおかげで、症状はそれほど進まずに、自宅での生活ができます。義母が安心した生活ができるように配慮はしていますが、これまでのことすべて忘れている義母に対するわだかまりがぬぐえません。気持ちの整理をどうすればよいのか悩んでいます。

妄想の世界には ついていけず

神奈川県・Hさん 74歳 女

79歳の夫は、狭心症の持病があり、カテーテル検査やステント挿入のための入院中に病院から脱走、認知症を疑いました。その都度認知症の症状は悪化していましたが、本人は神経科の受診を拒否、治療が遅れました。

現在デイサービスを週に1回3時間だけ利用しています。毎日仕事に出かけるつも

りで身支度をして外出しようとします。逆らうと興奮し暴言が激しくなるので、朝夕「散歩」と考え同行しております。ただ、私が妄想の世界にまでついて行けないため、本人はイライラすることが多いようです。

最新の情報はかかせない

宮城県・Kさん 66歳 女

90歳の義母は診断を受けておりません。7回の骨折、膝関節症でコルセット、両脚装具、車椅子、歩行器を利用してしています。

訪問介護、訪問リハビリ（脳リハビリ含む）を利用して13年余を経て、2013年9月に入所しました。

義父や昨年末に88歳で亡くなった実母のサポート生活は15年程になります。どちらも、兄弟間の協力連携がよく、良き戦力になりました。この間、私は胸腺腫切除術を2回受け、7年余になりますが、体調は万全ではありません。

今は、義父のサポートが主ですが、対応力の強化や私自身のある程度の心身の健康維持等を考えますと、日々変化する情報の習得はかかせないと思っております。

帰れないのに 出ていくことが増えた

東京都・Mさん 73歳 女

79歳の夫はアルツハイマー型認知症と診断されアリセプトを飲み始めて2年半あまり。周辺症状がひどくなり、腹が立ったり、暴言が出たり、イライラすると、一人では帰れないのにどこもなく出でていってしまいます。後を追って行かなくてはならないことが多くなり、今までで5～6回ありました。機嫌の良い時は180度違って物わかりがいいのですが、突然なので困っています。

終末期に不安

兵庫県・Sさん 52歳 女

83歳の実父は認知症と診断され7年になります。現在、終末期の段階です。まだ寝たきりではありませんが、歩行が困難になり外出先では車椅子、自宅内では見守り一部介助しながら移動できている状態です。これまで病状の進行と症状の変化に何とかついてきました。ある時は必死で追いつきながら本人と共に歩んできました。本人の心に寄り添う事を大切にしてきましたが、この段階に至り改めてその難しさを実感。今後あらゆる場面で岐路に立たされ決断を迫られる事を思うと不安でいっぱいです。

気持ちの整理がつきません

静岡県・Sさん 47歳 女

77歳の実父は4年前に前頭側頭型認知症と診断されました。そんな父を入院させることになってしまったことが、自分の気持ちの中で未だに整理できません。二人暮らしだったので、将来も不安です。自分も介護うつで休職中です。

父の気持ちを考えると不安で、寂しく、つらいのではないかと思ってしまい、こちらが苦しいです。実際には会話が成り立たないので良くわかりませんが…。

周りに認知症介護者がいるのかも判らず、ひとりでずっと悩んでいます。

このままでいいのか不安

茨城県・Kさん 68歳 女

同居の母を介護しています。記憶障害や見当識障害が出ていますが、とにかく、医者というだけで拒否、連れて行けずにいま

す。いつも私だけを相手にしているのでこのままでいいのか不安になります。

入浴も嫌がるので、母のために良くなるアイデアなど皆さんから聞けたらと思い「家族の会」に入会しました。現状が少しでも長く維持できるよう母ができる事を色々手伝ってもらっている日々です。

病気の進行の早さにとまどい

大阪府・Sさん 75歳 女

77歳の夫は昨年アルツハイマー型認知症と診断されました。最近はバランスを取りにくいのか、歩いていてもすぐつまずき転ぶようになりました。方向もわからなく、一人で外出が難しくなるなど、病気の進行の早さにとまどい、胸が痛く、力が抜けていく日々で、しっかりしなければと思っています。

遠距離介護しています

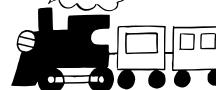
福岡県・Mさん 48歳 女

昨年5月より、熊本に住む親の介護のため、福岡→熊本を往復しています。その人らしい人生を模索していたところ、「家族の会」を知りました。在宅で介護を続けつつ、人生を充実させていきたいと考えて努力している毎日です。

お待ちしています！

■お便りで紹介した人へのお返事を「家族の会」編集委員会宛にお寄せください。

〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル京都社会福祉会館内
FAX.075-811-8188 Eメール office@alzheimer.or.jp

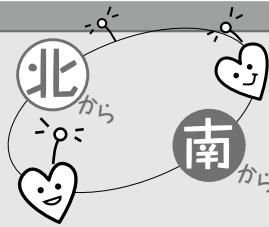


127 支部だよりにみる 介護体験

今回は
長野県

「認知症の父親、年末に4回目の緊急入院」

長野地区 塚田一弘



長野県支部版
(2014年1月号)



●緊急入院で24時間付き添い

認知症の父親（89歳）は要介護3に認定され、精神障害者保健福祉手帳1級を頂き、レビー小体型認知症・前立腺ガン・慢性肺気腫など14の病名が付きました。また、リバスタチックパッチなど認知症関係6種類も含めると20種類の薬（薬のデパート）を処方して頂いています。

昨年末の12月29日（日）の昼食の後しばらくして、急に呼吸が荒くなり、体温を測ったら39℃。以前3回入院した総合病院を休日受診してそのまま入院しました。勿論今回も私は24時間付き添い、少しづつ元気が回復してみると「さあ家に帰るか」が始まりました。

認知症の人は点滴の針を抜こうとしますが、私がふと「夜中に点滴の針を抜かないか心配だ」と漏らしたら、看護師さんに「抜いてしまったら、また刺しますから…」と言って頂き、とても楽になりました。30日の深夜・翌未明の2時30分頃、ふと目を覚ましたら、父親が点滴の針の上に巻かれた包帯を取ろうとしていて、焦った私は優しく「それは点滴の針で薬を入れているから取っては駄目だ」と言うと、「ああそうか」で一件落着。認知症の人は無意識に、ただ邪魔なものを取り除くような感覚だと勉強になりました。

「さあ家に帰るか」は31日（火）の午後から徘徊も加わり、隣の整形病棟の病室に入ろうとする、夜も一睡もしないベッド柵を外そうとして私が阻止（2時間）、ベッド柵を乗り越えようとして私もベッドに上がり後ろから抱きかかえる（2時間）など、心配する看護師さんに「認知症の介護は忍耐なので大丈夫です（『家族の会』会員としてのプライド）」と少しカッコ良く対応しました。

父親が「仕事に行く」と言った時は、1時間ほどのドライブで済みますが、激しく興奮している時は、具体的にどう対応してよいかイメージできず能力の限界を感じています。

●レビー小体型認知症の特徴

今まで殆どなかった幻視の症状が現れ始めたのはショックでした。病室の壁の染みを盛んに指差す、外泊で自宅に戻ってもゴミ箱を抱えて「アリババがいる」と潰す仕草が見られました。しばらくして元の生活に戻り気持ちが落ち着いたら全く消え、認知症の人には穏やかな生活がいかに大切か改めて勉強になりました。

●退院後の生活

1月10日（金）に退院しましたが、前半（12月29日～1月1日）の失敗の教訓を生かして最大限父親の世界を尊重して対応したため、基本的に穏やかに過ごせました。穏やかな時は「明日のご飯は大丈夫か?」「仕事はどうした?」などと59歳の息子を心配する89歳の父親になっています。

父親「(100歳まで)あと10年だ」私「あと11年だ、頑張ったい」父親「ああ頑張る」、しばらく前に父親とこんな会話をしました。遠くない時期に看取りを迎えると思いますが、2013年の大晦日から2014年の元日の朝まで一睡もしないで、父がベッド柵を外そうとするのを私が阻止する、さらにベッド柵を乗り越えようとするのをベッドの上で後ろから抱きかかえる、そんなことを繰り返していましたため、楽しみにしていたNHK紅白歌合戦（あまちゃんブーム）も全く見られず新年を迎えるました。これが決して忘れられない思い出になると考えたら限りなく切なくなりました。

いきいき 「家族の会」まちでも村でも

ご本人からの電話

神奈川
県支部

80代半ばの男性から「認知症コールセンターって何をしてくれるわけ！」と挑むような電話。最初は、不信感ただようやり取りが続いたが、「もの忘れが進んで彼女の顔を忘れたら大変なんだ」と、電話の雰囲気が

緩み、「バランスのよい食事、適度な運動など」をすすめたところ、「彼女のためにもやってみる」と言われ、最後に「悪かったな」という言葉で相談が終わりました。

相談員の佐野久枝さんは「本人は、病気への不安、苛立ちでいっぱいだったのでしょうか。デリケートな対応が必要」と語っています。

みんなの力を借りて介護中！

静岡県
支部

12月10日、18名の参加者で「クリスマス会」と「つどい」を開催。ハーモニカ演奏にうつとりしたり、一緒に歌ったりして楽しいひととき。「つどい」に初参加の80歳の夫を介護中のAさんは、

「夕方なのに『昼飯を食べてない』と夫が言うのを聞きとめた民生委員さんから『家族の会』を紹介され『つどい』に参加。夫は徘徊もよくし、おまわりさんとは顔なじみ」とみんなの力を借りての介護生活を紹介。

介護マークの普及など、認知症の理解と支援を求めてきた支部活動の成果ではないでしょうか。

晴れ晴れした気持ちで散会

大阪府
支部

「年末年始はデイサービスもお休み」、「二人きりの介護生活。せめてお正月くらいは親戚が集まって励ましてくれてもと思っても…」、「お正月は介護者にとって心が折れそう」

そんな中での介護者同士が集まって愚痴を出し合い、励まし合うのも面白いかもと1月10日、「つくしの会」を開催。待ち望んでいたかのように2組の本人と家族、5名の介護家族、介護専門職が参加。みんなは安堵した顔でじょう舌になり、介護の悩みを分かち合い、晴れ晴れした気持ちで散会しました。

市民フェスタで共感賞受賞

佐賀県
支部

「市民フェスタ2013 in とす」が、12月14・15日に56の市民活動団体が参加し、フレスピ鳥栖ウェルカムコートで開催されました。支部東部地区会は、「家族の会」を多くの人に知ってもらうために緊急シートや、

松かさマグネットの無料配布、パネル展示を行いました。このような活動に対してフェスタで共感賞を受賞、世話人たちは活動への意欲を高めました。



国際交流委員会発 インドネシアの巻 「ケアでつながる地球家族」

■日本の認知症ケアに取り組んでいる人々を称えます。

香港でのアジア太平洋地域会議で「ここにちは」と日本語で声をかけてくれたのは、インドネシアアルツハイマー協会のヌリザ・エカディニさんです。

彼女は、父親がインドネシアの日本大使だった関係で5歳まで東京で育ったのだそうです。その後も父親とともに大学までの期間をヨーロッパで過ごした後帰国し、美術商として活躍していました。

ある日、コンサートの会場で20年ぶりに友人のスハヤさんに再会しました。スハヤさんはア



ルツハイマー協会の代表をしていると言い、協会の活動のことを話してくれました。それを聞いたヌリザさんは、即座に自分も一緒に活動しようと決心したそうです。というのは、老人ホームを開くことが幼い頃からの夢だったからです。

アルツハイマー協会の広報担当部長として、国に認知症対策計画と公的支援の必要性を提言し、また、介護指導者の育成、専門職の認知症対応能力の向上、介護家族相互の助け合いの促進に取り組んでいます。そして、将来の夢は、認知症の研究所や施設を作ることだというヌリザさんは、日本へ次のようなメッセージを送ってくれました。

「日本は認知症ケアや介護者支援が大変進んでいます。日本政府は、認知症対策に重点を置いていますが、政府だけでなく、困難な課題に実際に取り組み、理想のケアを実現してきたみなさんには敬意を表します。インドネシアはもっと日本から多くを学ぶべきです。近い将来、両国がもっと緊密に協力し合えるよう願っています。ヌリザ」

(国際交流委員 鶩巣典代)

東日本大震災から3年 福島は今……

平成23年3月11日午後2時46分、震度6の地震が県内を襲い、津波により制御不能となった福島第一原子力発電所は水素爆発を引き起こし、放射性物質を世界中に撒き散らしました。あれから3年、“事故は収束、状況はコントロールされている”と政府は言います。しかし、県内に住んでいると復興は進まず時間だけが過ぎている思いがします。福島の今を支部より報告いたします。

各地で大雪となった2月の週末、雪が珍しくない県内も大きな影響が出ました。長時間の湿った雪、除雪の遅れ、立ち往生の車や倒木で通行止め

は数十ヵ所に及び、公共交通機関

もストップ、物流や人の移動に支障をきたしました。このような身動きが取れない中、また原発でトラブルが起きたら、とぞっしながらも雪かきに追われました。一見落ち着いているかに見える原発ですが、炉心状態の確認はできず、汚染水の解決手段も無く（雪の影響と管理ミスでまた汚染水が溢れたそうです）、何が起きてもおかしくない状態が続いています。



「道の駅そうま」内の震災を伝えるポスター

【震災・原発関連の2013年の主な動き】

- 除染・復興が進まない不満から現職が相次いで落選（郡山、いわき、福島、二本松の市長選にて）
- 6月、自民党の政調会長が「原発事故によって死者が出ている状況ではない」と発言。都知事選候補者の一人も同様の発言をする等、原発の安全性・必要性を訴える声が政財界から顕著にあがる
- 汚染水問題が深刻化。7月、汚染水が海へ流出と発表。9月、首相がオリンピック誘致時に「汚染水は完全にブロックされている」と世界に向けて発言。しかし、10月に港湾外で放射性セシウムを検出
- 11月、福島第一原子力発電所4号機使用済燃料プールからの燃料取り出し作業開始
- 12月、中間貯蔵施設選定が本格化。政府が知事と候補地の大熊、楢葉、双葉各町長に受入れを要請
- 12月、震災関連死が直接死(1,603人)を上回る（2月時点1,664人）
- 2014年1月、炉心溶融は起きなかった5・6号機が廃炉となり、今後40年に亘る廃炉研究施設に転用

政府のエネルギー基本計画は都知事選後に議論を再開し、目の前の経済維持のため原発依存の方針を打ち出そうとしています。福島と同じになるかもしれない原発が日本中に存在するにもかかわらず…。

昨年の新年挨拶で佐藤和子福島県支部代表は「怒りをバネにユーモアをもって生きていこう」と呼びかけました。交流会で集えば、怒りもユーモアを加えて生きるエネルギーとすることができます。原発から30キロ圏内に住む荒浜サエ相双地区会代表は、環境の変化やストレスから認知症の高齢者が増えている現状を支部会報で訴えました。つどいを増やし福祉イベントに参加する等で少しづつ参加者が増えてきています。施設や病

院は徐々に再開していますが、人は減り続け労働力不足は深刻です。自宅に戻れない方は未だ13万人います。避難生活をしながらの介護と施設運営の状況を南相馬市の内敏文氏は会報（全国版2月号で紹介）で切実に述べています。福島に住む会員は介護をしながら、病気を抱えながら、仕事や家事に従事しながら原発事故という異常な環境で不安を抱えながらも普段通りの生活を送っています。

福島県の現状はインターネットで確認することができます。「福島民報」「福島民友」（以上新聞社）「ふくしまの今が分かる新聞」（県広報）等と検索して、今の福島をもっと知ってもらえばと思います。

（福島県支部 芦野正憲）



今月の本人 宮城県支部・丹野智文さん（40歳）

39歳でアルツハイマー病の診断を受けた丹野さん。日々の生活や工夫などについて書いてくれました。2月27日に開かれた厚労省老健局長や都道府県担当者などが出席した、「若年性認知症施策を推進するための意見交換会」に出席し、意見を述べました。



意見交換会で発言する丹野さん。左は宮城県支部 世話人・若生栄子さん。
(撮影：高見国生代表理事)

1日の生活の中で工夫していること

仕事



「ノートを3冊使っている」

- 仕事のやり方を書いてあるノート
(教えてもらったことをすべて記入、これがないと仕事にならない)
- 1ヶ月・1年の予定や仕事の流れが書いてあるノート（終わったら、○をつけて仕事が抜けないようにしている）
- 毎日何をしたのか書いているノート
(何が終わったのか、何をしたのか忘れてしまうのでチェックできるように)

「仕事の失敗もあるけれど…」

- 細かい失敗はあるが大きなトラブルはない
- 会社の理解もあり助けてもらっている
- 何度も確認、時間はかかるがしょうがないと割り切っている
- 夕方にした仕事は間違っている場合も多いので、次の日の朝に必ず見直しをしてから提出している

通勤



「降りる駅を忘れてしまう時もあるけれど…」

- 忘れても途中で降りて駅員さんに聞くようしている
(パニックになってしまって、降りて落ち着いて名刺を見せて聞く)
- 定期入れに駅名を書いてあるが、見るのを忘れてしまうのであまり意味がない
- 乗り換えもあり、バスや電車の定期を間違えて改札に入れてしまい通るのに時間がかかってしまう

情報コーナー

交流の場

- 青森●4月27日(日) 午後1:30～3:30／若年性認知症の人と家族の会つどい→弘前社会福祉センター
宮城●4月3日(木)・17日(木) 午前10:30～午後3:00／翼（本人・若年）のつどい→泉社会福祉センター
埼玉●4月23日(水) 午前11:00～午後1:00／若年のつどい・大宮（北区）→地域包括支援センター 講訪の苑
富山●4月5日(土) 午後1:00～3:30／てる

てるぼうずの会→サンフォルテ
岐阜●4月13日(日) 午前11:00～午後3:30
／若年性認知症の人の会→アルトケアセンター
●4月20日(日) 午前11:00～午後3:30／あすなろ絆会→ニッケかかみ野苑
愛知●4月5日(土) 午後1:30～4:00／元気会→東海市しあわせ村
滋賀●4月9日(水) 午前10:00～午後2:00／ピアカウンセリング→成人病センター職員会館
鳥取●4月1日(火) 午前9:30～11:30／江府町江尾の会→総合健康福祉センター
広島●4月12日(土) 午前11:00～午後3:30

／陽溜まりの会北部・広島合同お花見→尾関山公園
●4月26日(土) 午前11:00～午後3:30／陽溜まりの会西部→あいプラザ
福岡●4月5日(土) 午前10:00～午後0:30／若年性認知症の人と介護家族のつどい→福岡市市民福祉プラザ
熊本●4月5日(土) 午後1:00～3:00／若年性認知症のつどい→県認知症コールセンター
大分●4月5日(土) 午後1:00～3:00／若年性認知症のつどい→県社会福祉介護研修センター
詳細は各支部まで